

大菩薩連嶺の南端にどっしり構えた存在感たっぷりの山…

滝子山

実施日 2014年11月15日(土)
 天候 晴れ
 リーダー 遠井 謙策
 参加者 山崎富美恵、石附智江、渋谷賢
 寿、渋谷京子、遠井謙策、中村
 友子、伊藤久雄、宇野輝代、斉
 藤伸二郎、徳山敬子、小名秀鋭、
 滝澤きよの 計12名
 費用 JR1,340円(高尾駅起算)、タク
 シー代 900円 計2,240円
 タイム 大月駅(8:45タクシー)道証(地藏)登
 山口(9:25)曲沢峠分岐(10:20)滝
 子山山頂(11:45~12:30昼食)松
 平(13:00)林道終点(14:45)初狩
 駅(15:20)

・プロローグ) 晩秋の穏やかな登山日
 の一日だった。早い日没を考慮し、登
 山口の道証地藏へ向うルートを、笹子
 からの長い車道歩きを避けた、大月から
 タクシーを利用する楽々大名方式へ直前
 に変更した。概ね好評、一部に批判。こ
 ういう「判断」には付き物の、避け得な
 い賛否両評価。

・さて本題) 挨拶を交わしお地藏さん
 に手を合わせ、抜けるような紺碧の空に
 感謝し登り始める。



沿いの緩やかなり
 道を行く。三丈の名
 滝を手に始めに次々
 も無き滝が次々と
 現れ清々しい。あた
 りから来ているの
 だろうか?モチガ滝
 を過ぎ、「難路」沿い
 に沢の流れを楽しみ
 ながら標高を稼い
 で行くと、大きな
 岩の上を滑るよう
 に走るナメ滝に出
 る。ここで滝とは
 お別れだ。



平坦で歩きやす
 い雑木の道が暫く
 続く。やがて広々
 とした伐採された
 尾根道に出る。言
 うところの「防火
 帯」であろう。振
 り向くと八ヶ岳方
 面の山々がキラキ
 ラと輝いている。
 一本立てるとすか
 さずリンゴと蜜柑
 の差入れときた。
 いつもながら会
 員の暖かい

サービスが有難い。大谷ケ丸への道を左
 に分け再び登りに掛かると、小さな祠が
 突然登場する。傍に水溜りのような「鎮
 西ケ池」がある。鎮西為朝と妻白縫姫を
 祀っているらしいが、本当にこんな所に
 彼らは来たのだろうか?

更に進む。鞍
 部を右にひと
 登り。昼前に
 山頂に到着
 した。大菩薩
 連嶺や道志山
 がぐるりと
 取り巻く中、
 たつぷりと雪
 化粧をした富
 士山の雄姿が
 今も大きい。
 そんな山々を
 前に、各自思
 いの席を確保、
 ゆっくりとお
 弁当の時間
 を楽しんだ。



下山開始後すぐ
 二等三角点のあ
 る峰を通過する。
 三角点とは地
 作成の為の基準
 点であり1等
 4等まである。
 よ

って必ずしも最高地点(山頂)にある
 は限らない。蘊蓄はともかく、上り
 打って変わった急坂を下りる。枯葉
 易い。隠れた木の根っこもある。神
 経を集中し腰を落として慎重に降り
 の多い男坂を経由して下ること30分
 平らな広場「松平」へ出る。そこ
 ブナやコナラの落ち葉の絨毯を踏
 むように下っていき、林道終点
 の集落を通り、初狩駅へ向った。

・エピローグ) 紅葉はもう終盤で、
 枯木が目立つ冬の風情を醸し出
 していたが、

所々に残る赤や
 黄色がその分鮮
 やかで印象的
 であった。又山頂
 にあっても途
 中においても、騒
 がしくもなく又



寂しくもない手頃な数の登山仲間と
 出会ったこともどこか嬉しい感
 覚を残した。ゆったりとした親
 しみを感じる素敵な山であ
 った。耳をそばだてると、
 "今度はツツジ咲く瑞々しい
 新緑の季節に訪ねておい
 で"と囁いている声が聞こ
 えた。

(記&写真・遠井謙策)
 (写真提供・伊藤久雄)